

2020 年度

東京学芸大学 留学生センター

年 報

はじめに

留学生センター年報の 2020 年度版がまとまりましたのでお届けします。

2020 年度は、COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の感染拡大を受けた対応に翻弄された一年でした。国境を越えての人の移動が厳しい制約を受ける中、本学でも 2020 年度春学期に来日する新規の留学生の受入を中止することとなりました。秋学期は、国費留学生（教員研修留学生、日本語・日本文化研修留学生等）で渡航の条件が整った者から新規の受入を部分的に再開しましたが、協定校からの交換留学生については未だ受入再開に至っておりません。また、昨年度より事業を開始したタイのシラパコーン大学 7+1 プログラムも、先方との協議を経て中止となりました。そうした諸事情もあって、2020 年 10 月 1 日現在の留学生は 130 名（昨年は 229 名）と大幅に減少しております。

こうした中、留学生センターの専任教員 4 名と特任教員 2 名、非常勤講師の先生方、学務部国際課のスタッフ等々、状況の推移を見据えつつのイレギュラーな対応を余儀なくされました。基本的には、(1)来日可能な学生（あるいは既に日本に滞在している学生）は本学での授業に参加、(2)来日困難な学生については延期ないし中止、(3)ただし(2)のうちで希望する学生については本国から本学の授業にリモートで参加、という方針で臨みましたが、本学全体の方針（5 月連休明けにリモートで授業開始、その後 7 月以降に一部対面授業再開）との兼ね合いもあって、日本語科目や日本理解科目、さらには共修科目といった留学生向けの授業の運営につきましては、制約の中で最大限の教育効果を上げるべく取り組みました。また本センターの重要な事業である、日本の教育や文化を留学生たちが実地に学習する機会の提供や交流事業等の企画につきましても、その大半を中止したり、あるいはリモートでの実施に切り替えたり、という形となりました。それぞれの具体的な取り組みに関しましては、この年報の記事をご覧くださいいただければと思います。

COVID-19 の収束の見通しはなかなかつかず、本センターも引き続きイレギュラーな運営を行っていくこととなりますが、世界各地の学生には日本に強い関心を持ち、日本で学ぶことを願う者が少なからずおります。国境を越えての人の往来が再び活性化し、留学生にとっての学びの場が再び広がることを願ってやみません。

末筆になりましたが、今年度の本センターを支えてくださった学内・学外の方々に深く御礼申し上げますとともに、引き続きのご支援、ご鞭撻のほどを切にお願い申し上げます。

留学生センター長

岩田 康之

目次

はじめに

1. 全学留学生対象の事業.....	5
1.0 受入れ留学生数（学部および大学院正規生を除く）.....	5
1.1 日本語科目の構成.....	5
1.2 日本語1～5：開講枠数およびプレースメントテスト受験者数.....	5
1.3 日本語1～4：レベル別開講科目（春学期）.....	6
1.4 日本語1～5：レベル別開講科目（秋学期）.....	6
1.5 日本語集中コース（日本語5）.....	6
1.6 日本理解・多文化共修科目開講枠数.....	6
1.7 留学生による授業評価.....	7
1.8 研究・生活支援事業および見学・交流事業.....	7
2. 国費研究留学生および教員研修留学生（教研生）対象の事業.....	9
2.1 2019年度入学教員研修留学生と研究発表題目.....	9
2.2 2019年度入学教員研修留学生 主な行事.....	9
2.3 2020年度入学教員研修留学生.....	10
2.4 2020年度入学教員研修留学生 主な行事.....	10
3. 日本語日本文化研修プログラム留学生（日研生）対象の事業.....	11
3.1 2019年度10月入学日研生および修了レポート題目.....	11
3.2 2019年度10月入学日研生 春学期主な行事.....	12
3.3 2020年度10月入学日研生.....	12
3.4 2020年度10月入学日研生 主な行事.....	12
4. 留学生教育プログラム（ISEP）留学生対象の事業.....	13
4.1 2019年度10月入学ISEP生および個人研究題目.....	13
4.2 2020年度10月入学ISEP生.....	13
5. シラパコーン大学7+1プログラム留学生対象の事業.....	14
6. その他の活動.....	14
7. 教員の教育・研究活動.....	15
資料1 日本語科目（日本語1～5）一覧（*印は学部開設科目）.....	24
資料2 日本理解科目一覧.....	27

資料3	短期留学プログラム (ISEP) 科目一覧.....	28
資料4	主な行事の写真	29
資料5	各プログラム概要.....	30
	■日本語日本文化研修プログラム概要 (2016.10～)	30
	■ISEP プログラム概要.....	31
	■教員研修プログラム	32
	■シラパコーン大学7+1プログラム.....	33

1. 全学留学生対象の事業

1.0 受入れ留学生数（学部および大学院正規生を除く）

	春学期			秋学期			
	在籍	新規	計	在籍	新規	海外**	計
交換留学生*（一般）	31	0	31	0	0	11	11
交換留学生*（ISEP）	8	0	8	0	0	1	1
日本語日本文化研修 留学生	10	-	10	-	7***	0	7
教員研修留学生	4	-	4	4	9***	1	14
国費研究留学生	2	0	2	2		0	2
予備教育生	-	0	0	-	1***	0	1
私費研究生	9	1	10	9	1	5	15
計			65				51

*COVID-19 感染拡大のため、交換留学生の受入れは春学期・秋学期とも中止となった。

**秋学期は海外からのリモート受講を受け入れた。

***国費留学生は 11 月～12 月に来日。来日まではリモート受講。

1.1 日本語科目の構成

	授業形態	必修・選択の別	クラスの決定方法
日本語 1	一般 1 科目当り 週 2 時間	選択	全学日本語プレースメン トテストならびに Can- do statements 調査によ る
日本語 2			
日本語 3			
日本語 4			
日本語 5	集中 週 20 時間	国費研究留学生・教員研修留学生で 日本語能力の低い者は必修	学習歴調査による

1.2 日本語 1～5：開講枠数およびプレースメントテスト受験者数

	春学期	秋学期	計
開講枠数	42 (枠)	47 (枠)	89 (枠)
プレースメントテスト受験者数	テスト実施なし*	54 (人) **	54 (人)

*コロナ禍のため、対面テストを実施しなかった。レベル判定は先学期の履修レベルに基づいて行われた。

** 秋学期はオンラインでテストを実施した。

1.3 日本語 1～4：レベル別開講科目（春学期）

	総合	作文	講読	会話	漢字	聴解	文法	特別演習	プロジェクト	計
日本語 1	1	1*	2	1*	1	1	1	2	1	11**
日本語 2	1	2	1	2	1	1	2	3		14**
日本語 3	2	1	1	1	1	1	1	-	-	8
日本語 4	4	1	-	1	1	-	-	-	-	7

*これ以外に国語科教室で開設している学部の日本語科目が各 1 枠ある。

**合同レベル開講科目を含む。

1.4 日本語 1～5：レベル別開講科目（秋学期）

	総合	作文	講読	会話	漢字	聴解	文法	特別演習	プロジェクト	計
日本語 1	1	1*	1	1*	1	1	1	2	-	9**
日本語 2	1	1	1	1	1	1	1	2		9
日本語 3	2	1	1	1	1	1	1	-	-	8
日本語 4	4	1	1	1	1	1	-	-	-	9
日本語 5	4	1	1	1	1	-	-	1	-	9

*これ以外に国語科教室で開設している学部の日本語科目が各 1 枠ある。

**合同レベル開講科目を含む。

1.5 日本語集中コース（日本語 5）

	学期	開講枠数（科目別内訳）	受講者数（身分別内訳）
日本語 5	春	開設なし	-
	秋	9 枠/週 (総合 4・文字 1・会話 1・ 作文 1・講読 1・特別演習 1)	7 名 (教員研修生 6 名、 交換留学生 1 名)

1.6 日本理解・多文化共修科目開講枠数

	春学期	秋学期	計
多文化共修科目 (留学生センター開設 CA 科目)	2	2	4 (枠)
日本理解 (留学生センター開講)	4	4	8 (枠)

1.7 留学生による授業評価

春学期全体集計結果		問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11	問 12	問 13	問 14	問 15	問 16
回答総数	平均	4.72	4.54	4.47	4.58	4.84	4.61	4.72	4.70	4.70	5.01	3.15
158	標準偏差	0.63	0.72	0.80	0.73	0.46	0.69	0.54	0.57	0.61	0.50	0.55

秋学期全体集計結果		問 6	問 7	問 8	問 9	問 10	問 11	問 12	問 13	問 14	問 15	問 16
回答総数	平均	4.91	4.85	4.88	4.92	4.94	4.87	4.93	4.92	4.90	3.98	3.01
136	標準偏差	0.31	0.42	0.40	0.32	0.29	0.48	0.34	0.32	0.36	0.26	0.41

[アンケート項目]

問 6.授業科目名や目標にあった授業内容だった。	[5 4 3 2 1]
問 7.授業内容がよく理解できた。	[5 4 3 2 1]
問 8.興味を持って受講できた。	[5 4 3 2 1]
問 9.新しい知識・能力・技能が身についた。	[5 4 3 2 1]
問 10.教員は熱心だった。	[5 4 3 2 1]
問 11.教員の指示はわかりやすかった。	[5 4 3 2 1]
問 12.教員の説明は適切だった。	[5 4 3 2 1]
問 13.教員は質問にわかりやすく答えてくれた。	[5 4 3 2 1]
問 14.教員の話し方は聞き取りやすかった。	[5 4 3 2 1]
問 15.教材は適切だった。	[5 4 3 2 1]
問 16. (日本語のクラスについて聞きます。) あなたにとってこのクラスは、	
[5:むずかしすぎた 4:むずかしかった 3:ちょうどよかった 2:やさしかった 1:やさしすぎた]	

1.8 研究・生活支援事業および見学・交流事業

事業内容	実施日	参加者数 (延数)
研究・生活支援事業		
新入学生オリエンテーション	コロナ禍のため未実施	
新入生ウェルカムパーティ [共催：生協]	コロナ禍のため未実施	
防災体験学習 (立川防災館)	12月23日	日研究生7名、国費研究生1名
にほんごサポートルーム	コロナ禍のため未実施。 留学生センター教員の指導のもと、学生団体のINTERによるオンライ	

	ンの「日本語トークルーム」が行われた。	
オフィスアワーによる相談時間	週 6 回	日直教員で対応
見学・交流事業（附属学校及び公立学校との交流）		
附属竹早小学校での交流授業	コロナ禍のため未実施	
附属小金井小学校での交流授業	12 月 16 日	9 名（教研生）
東京都立国際高等学校	コロナ禍のため未実施	
東京都立淵江高等学校	2 月 10 日オンラインによる実施	日研生 7 名
見学・交流事業（その他の見学・交流事業）		
秋のお散歩（貫井神社～野川～武蔵小金井）	コロナ禍のため未実施	
江戸東京たてももの園	オンラインによるビデオ紹介	日研生 7 名
国際交流合宿	コロナ禍のため未実施	
日本科学未来館	1 月 8 日	日研生 7 名、国費研究生 1 名
三鷹の森ジブリ美術館	コロナ禍のため未実施	
歌舞伎鑑賞教室	コロナ禍のため未実施	
茶道体験教室	コロナ禍のため未実施	
文楽鑑賞教室	コロナ禍のため未実施	
大相撲トーナメント見学（国技館）	コロナ禍のため開催中止	
和菓子ワークショップ（和菓子作りデモンストレーションと体験）	コロナ禍のため未実施	
留学生カフェ	コロナ禍のため未実施。留学生センター教員の指導のもと、学生団体の INTER によるオンラインの留学生との交流イベントが行われた。	
海外の学校教育事情 Education and Culture Abroad	春学期毎週 1 回オンラインによる実施（計 4 回）	<協力者>教研生 4 名 参加者延べ 61 名
留学生のための和装文化講座(和装文化についての講習会と着付け体験)	コロナ禍のため開催中止	

2. 国費研究留学生および教員研修留学生（教研生）対象の事業

2.1 2019 年度入学教員研修留学生と研究発表題目

氏名	国籍	指導教員	予備教育受入
KIM, HYOREEN	大韓民国	粕谷恭子	
日本と韓国のコミュニケーションに関する英語教育の比較			
YANG, SUNGHEE	大韓民国	粕谷恭子	
Comparison on the Contents of Alphabets and Sound Awareness between Korea and Japan			
LEE, MINSOO	大韓民国	森本康彦	
日本と韓国のプログラミング教育内容構成の比較			
WANSOPA WANVISA	タイ	櫻井真治	
タイの高等学校の日本語授業における日本や日本語への興味関心を高める授業 - 生徒一人ひとりの学びを見取り支援することを通して -			

(計 4 名)

* 『2019.10～2021.3 教員研修留学生研修プログラム最終報告書』として刊行予定

2.2 2019 年度入学教員研修留学生 主な行事

2020

October 14 (Wed)	Orientation III
October 16 (Fri)	Classes begin
November 02 (Mon)	Koganei Festival (No class)
November 03 (Tue)	Culture Day (No class)
November 23 (Mon)	Labour Thanksgiving Day (school day)
December 28 (Mon)	The last school day before holiday

2021

January 04 (Mon)	Classes restart
January 11 (Mon)	Coming-of-Age Day (No class)
January 15 (Fri)	Preparation for entrance examination (No class)
February 09(Tue)	Classes end
February 10 (Wed) ~ 16 (Tue)	Period for makeup classes
[* Feb 11 (Thu) National Foundation Day (school day)]	

3. 日本語日本文化研修プログラム留学生（日研生）対象の事業

3.1 2019 年度 10 月入学日研生および修了レポート題目

氏名	国籍・所属大学	指導教員
修了レポート題目		
ハニ・サリラ	インドネシア教育大学	小西円
日本の小学校における道徳教育と規律正しい日本社会との関係		
ドー・トゥー・チャン	ベトナム・ハノイ国家大学外国語大 学	谷部弘子
歌を用いた語彙学習法		
スクニミット・パーニッサラー	タイ・シラパコーン大学	許夏玲
タイ人中上級日本語学習者の相づちの使用に見る母語の影響		
フーパー・アクセル・カール	スウェーデン・ヨテボリ大学	岡智之
日本人大学生の移民に対する意識		
ヴィルヌーヴ・マリ・マガリ・ジャンヌ	フランス国立東洋言語文化大学	伊能裕晃
日本の高校における古典教育：現状、問題点、解決に向けて		
ビルセン・ヤシャム・セリン	トルコ・エルジェス大学	伊能裕晃
日本の迷信と現代の日本人の迷信観		
ダン・フォン・アイン	ベトナム・ハノイ国家大学外国語大 学	小西円
日本における否定接頭辞「不」と「非」ーベトナム語との比較ー		
ウチャル・オズレム	トルコ・チャナッカレ・オンセキ ズ・マルト大学	許夏玲
滞日の外国人の宗教観と信仰心の変化に関する意識調査		
チェリッキ・チュンラ	トルコ・チャナッカレ・オンセキ ズ・マルト大学	谷部弘子
20代・30代の日本人とトルコ人の謝罪行動に関する意識について		
ドブチノフ・ゲルマン	ロシア・ブリヤート国立大学	岡智之
「アルヨことば」と外国人キャラクター＜片言＞日本語の比較		

(計 10 名)

* 『2019.10～2020.8 日本語日本文化研修留学生 研修レポート集』として刊行

3.2 2019 年度 10 月入学日研 春学期主な行事

5 月 7 日	春学期授業開始
5 月 27 日	中間発表会①
6 月 3 日	中間発表会②
6 月 17 日	中間発表会③
6 月 24 日	中間発表会④
8 月 10 日	春学期授業終了
8 月 12 日	研究発表会・修了式

3.3 2020 年度 10 月入学日研 生

氏名		指導教員
シュナイダー イザベル ルシア	スイス	岡 智之
デウィ ユリアナ	インドネシア	許 夏玲
メート ミヒャエル アントン	ドイツ	伊能裕晃
セトミニ スサーラー ワンニアラッチ	スリランカ	小西 円
イヴァノヴァ マリヤ	ロシア	許 夏玲
ドアン ベルカイ	トルコ	許 夏玲
アンドレアナ ヨルダノヴァ タシェヴァ	ブルガリア	有澤知乃

(計 7 名)

3.4 2020 年度 10 月入学日研 主な行事

- 10/21 オリエンテーション 【オンライン】 (16:10～)
- 10/28 元日研生の留学経験談 【オンライン】 (14:00～)
- 11/4 「日本語の若者言葉」(プログラム担当) 【オンライン】 (16:10～)
- 11/11 研究テーマへの取り組み 【オンライン】
- 11/18 講演会「川柳の初心者講座」 【オンライン】
- 11/25 学芸大キャンパス紹介 【オンライン】
- 12/2 江戸東京たても園紹介 【オンライン】
- 12/9 「現代日本語の様相」(プログラム担当) 【オンライン】
- 12/16 日本科学未来館見学 【学外】
- 12/23 防災館学習 【学外】
- 1/13 研究テーマの構想発表 1 【オンライン】 (2 名:1 人 15 分発表, 10 分質疑応答)

1/20 研究テーマの構想発表2 【オンライン】

1/27 研究テーマの構想発表3 【オンライン】

2/3 振り返り 【オンライン】

2/10 東京都立淵江高校との交流会 【オンライン】

4. 留学生教育プログラム (ISEP) 留学生対象の事業

4.1 2019年度10月入学 ISEP 生および個人研究題目

	氏名	所属大学	個人研究 (Individual Study)	指導教員
1	Huang, Zitong (黄梓潼)	Shanghai Normal University (上海師範大学)	Female Japanese American Immigrants' Double-identity Search and Compromise in Hisaye Yamamoto's Seventeen Syllables	Ado, Masahiko (阿戸 昌彦)
2	Shi, Songcun (施松村)	Nanjin Normal University (南京師範大学)	The Unique Way of Japanese Virtual Idols to Reach People's Hearts:A Case Study of Vocaloid Characters	Chida, Hiroyuki (千田 洋幸)
3	Zhao, Yulu (赵雨璐)	Nanjin Normal University (南京師範大学)	Home Economics in Japan and Its Enlightenment for China	Iwata, Yasuyuki (岩田 康之)
4	Lam, Wing Lun (林 穎倫)	The Chinese University of Hong Kong (香港中文大学)	Anime Pilgrimage: What Do the Pilgrims Want to Achieve through Travelling to the Sacred Place?	Asano, Tomohiko (浅野 智彦)
5	Wong, Wing Sum (王 穎心)	The Chinese University of Hong Kong (香港中文大学)	The Kissaten Culture in Japan: How do Is Kissaten Available as a Third-place in Urban Space	Tsubaki, Machiko (椿 真智子)
6	Yang, Yu-Hsiang (楊宇翔)	National Taiwan University (国立台湾大学)	Discontinuity of Coral Reef Spacial Distribution from Japan to Taiwan	Aoki, Hisashi (青木 久)
7	Anja Dominique De Rozario	University of Camberra	Kyuubi no Kitsune and the Bunyip - What Keeps A Myth Alive	Uesugi, Yoshimi (上杉 嘉見)
8	Vinh Julien Parneix	University of Grenoble Alpes	Impacts of Education on Individuals in Different Countries	Suematsu Hiroki (末松 裕基)

* 『ISEP Individual Study 東京学芸大学短期留学プログラム個人研究レポート集 Autumn 2019-Spring 2020』として刊行

4.2 2020年度10月入学 ISEP 生

	氏名	所属大学	指導教員
1	Nihade Benaissa	University of Grenoble Alpes	※

※渡日せず自国からのオンライン履修のため指導教員の配置無し。

5. シラパコーン大学7+1プログラム留学生対象の事業

2020年度は2019年度と同様の10名が本プログラムに参加予定であったが、コロナ禍により参加学生の渡日がかかわらず、誠に遺憾ながら、プログラム自体が中止となった。

6. その他の活動

- 遠隔授業を行うにあたり、講師研修会「学芸大WebClassのeポートフォリオの使用
方法」「Teamsの使用法(春学期、秋学期)」を行った。
- 遠隔授業における著作権について認識を共有するため、日本語科目担当教員に対し
改正された著作権法に基づく「授業目的公衆送信補償金制度」の研修会を行った。
- 渡日ができず、海外からの受講することになった留学生、非常勤講師に対して、
学芸大WebClassやTeamsの使用法についての研修会、授業に使用するICT
機器の貸し出しや整備等を行った。
- Facebook：Tokyo Gakugei University Alumni Network of International Studentsの
ページを引き続き運営し、周知に努めた。
- 小金井市主催の外国人スピーチコンテストへの後援と審査員の協力を行った(3月6
日)
- 全学留学生対象(主に非正規生)のメーリングリストの更新と利用
- 各種の行事やイベントのウェブ申込みシステムの推進
- 大学院生(次世代日本型教育システム研究開発専攻日本語教育領域)の授業見学の受入
- 刊行物
 - (1)『2020年度 東京学芸大学留学生センター年報』
 - (3)『2018.10-2020.3 教員研修留学生研修プログラム最終報告書』
 - (3)『2019.10-2020.8 日本語日本文化研修留学生修了レポート集』
 - (4)『ISEP Individual Study 東京学芸大学短期留学プログラム個人研究レポート集
Autumn 2019-Spring 2020』

7. 教員の教育・研究活動

■有澤 知乃

【センター内主担当】 日本理解教育担当（専任教員）

【研究分野】 民族音楽学，日本研究

【研究活動】

1. 論文

- ① Arisawa, Shino. 2021. "Music Education at Overseas Chinese Schools in Japan: The Changing Relationship Between the Homeland and the Host Society". *Senri Ethnological Studies* 105: 269-283, *Music and Marginalization: Beyond the Minority-Majority Paradigm*. Edited by Ursula Hemetek, Inna Naroditskaya and Terada Yoshitaka, pp.269-283.

【教育活動】

学部・センター共通開設科目

（春学期） 「Global Japan Studies A」 「Exploring the Cultural Diversity of Japan (I)」

（秋学期） 「Global Japan Studies B」 「Exploring the Cultural Diversity of Japan (II)」

「Traditional Performing Arts of Japan」

「多文化共修科目 D（世界の民族と文化）」

学部開設科目

（春学期） 「学芸フロンティア科目 C」

大学院開設科目

（春学期） 「Global Citizenship and Education」

「Global Education from Intercultural/Interdisciplinary Perspective」

（秋学期） 「地域文化（日本 A）」

【その他の活動】

①学内

1. 国際戦略推進本部委員

2. 国際戦略推進本部外国人留学生の受入れとグローバル人材の養成プロジェクト実施部会 (ISSUP)委員

②学外

1. 科学研究費補助金 基盤 (C) 「多様化する中華学校における音楽教育の民族音楽学的研究」 (研究代表者)

【所属学会】

International Council for Traditional Music, European Association for Japanese Studies

東洋音楽学会, 日本音楽学会

■伊能 裕晃

【センター内主担当】日本語教育担当（特任教員）

【研究分野】 日本語教育学，文章・談話論

【教育活動】

①著書

1. 三好裕子、伊能裕晃、来栖里美、本田ゆかり、前坊香菜子(2020)

『新完全マスター語彙 日本語能力試験N4』スリーエーネットワーク

②報告書

1. 佐久間まゆみ(2020)『講義理解における要約力に関する研究』「受講ノートにおける講義理解の要約力」(ノート班：石黒圭、伊能裕晃、徳田かおり、桶谷潤、田中啓之)pp.26-76

②授業

留学生センター開設科目

(春学期) 「シラパコーン特別演習(中止)」

(秋学期) 「日本語5総合B1」、「日本語5総合B2」

学部開設科目

(春学期) 「多文化共修科目C (世界の言語と文化)」

【所属学会】

日本語教育学会，留学生教育学会，日本文体論学会，早稲田大学日本語学会

■岡 智之

【センター内主担当】 日本理解教育担当（専任教員）、留学生センター主任

【研究分野】 言語学、日本語文法

【研究活動】

① 論文

1. 岡 智之（2020）「大阪の笑い」と事態把握」特約論文「中日の笑いをめぐる対照研究—事態把握の観点から—」守屋三千代、岡智之、徐愛紅、『漢日語言対比研究論叢』第11集、漢日対比語言学研究会・西安外国語大学日本文化経済学院編、pp121-124

② 口頭発表

1. 岡 智之 「多文化共修科目の発展—多言語社会とコミュニケーションの試み」2020年度異文化間教育学会第41回大会、2020年6月13日、オンライン大会

【教育活動】

留学生センター開講科目

（春学期） 「日研生特別演習Ⅱ」（日研生担当）

（秋学期） 「日本語2文法B」

学部開講科目

（春学期） 「多文化共修科目A（多文化社会の課題解決プロジェクト）」

（秋学期） 「多文化共修科目B（多言語社会とコミュニケーション）」、
「日本語教育演習」

大学院開設科目

（春学期） 「日本語教育ⅠA」「フィールド研究B」

「次世代日本型教育と日本語教育」（オムニバス科目4回）

（秋学期） 「日本語教育ⅡA」「フィールド研究A」

ゼミ等

（春学期） 修論ゼミ（金4）（秋学期） 修論ゼミ（金4）

指導学生：修士5名、研究生3名、日研生3名

修士論文審査：主査1名、副査5名

【その他の活動】

① 学内

1. 国際交流グループINTR顧問（にはんごトークルーム、オンラインイベントなど）
2. 多文化共修科目・大学院フィールド研究Aでの課外活動、フィールドワークの企画・指導
（日本語オンラインサポート（学部・院留学生対象）、群馬県太田市ブラジル人学校とのオンライン交流など）
3. 多文化共修科目Bでの授業公開（大泉町観光協会、琉球語と琉球文化、アイヌ語とアイヌ文化、ろう文化と手話）
4. 東京学芸大学ヒューマンライブラリー2020、2020年11月13日、12月10日オンライン

開催（実行委員会代表）、報告書あり

② 学外

1. 「場の言語・コミュニケーション研究会」事務局長、『場と言語・コミュニケーション』編集会議（年間3回会議主催）
2. ナル表現研究会参加（年間3回開催）
3. 小金井市国際支援協会（KISSA）、小平市国際交流協会 外国につながる児童生徒の支援・協力

【所属学会】

日本認知言語学会，日本語教育学会，異文化間教育学会，国立大学留学生指導研究協議会，日本ヒューマンライブラリー学会

■小西 円

【センター内主担当】日本語教育担当（専任教員）

【研究分野】 日本語教育学、日本語学

【研究活動】

①論文

1. 小西円（2021）「「話す」タスクと「書く」タスクにおける産出語彙のレベルの比較分析—習熟度の差を中心に—」『東京学芸大学紀要 総合教育科学系』第72集、 pp.481-492

②学会発表

1. 中俣尚己・建石始・堀内仁・小西円（2020）「『名大会話コーパス』で話されている話題の計量的分析—話題バイグラムを用いて—」2020年度日本語教育学会春季大会（オンライン開催）2020年5月31日
2. 小西円（2020）「日本語学習者の習熟度ごとに見たフィラーの分析」I-JAS完成記念シンポジウム（オンライン開催）2020年6月21日
3. 小西円（2021）「話題提供（2）日本語学習者の自問発話」（ワークショップ1「日本語教育の「非流暢性」—その言語的な実現と相互行為上の役割に注目して—）第45回社会言語科学会研究大会（オンライン開催）2021年3月13日

③その他

1. 小西円（2020）「書評：宇佐美まゆみ編 自然会話分析への語用論的アプローチ—BTSJコーパスを利用して—」『早稲田日本語教育学』29、 pp.137-141

【教育活動】

1. 留学生センター開設科目
（秋学期） 「日本語 4 作文 B」
2. 学部開設科目
（春学期） 「日本語教育概論」、「日本語教育基礎研究」
（秋学期） 「日本語教育教材開発論」
3. 大学院開設科目
（春学期） 「日本語教育 I C」、「次世代日本型教育と日本語教育」（オムニバス）、「フィールド研究 B」
（秋学期） 「日本語教育 II C」、「フィールド研究 A」
4. その他ゼミ
（春学期） 大学院修論ゼミ
（秋学期） 学部卒論ゼミ、大学院修論ゼミ
5. 指導学生
学部：9名、修士：5名、研究生：1名、日研生：2名（春学期）、1名（秋学期）
6. 論文指導
卒業論文：4名（主査）、7名（副査） 修士論文：2名（主査）、3名（副査）

【その他の活動】

①学内

1. 親好会幹事
2. 2020年～2021年度教員研修留学プログラム担当

②学外

1. 科学研究費補助金 若手研究「テキストの特徴からみた日本語教育のための類義表現研究」
(研究代表者)
2. 科学研究費補助金 基盤研究(B)「話題が語彙・文法・談話ストラテジーに与える影響の
解明」(研究分担者)
3. 第二言語習得研究会 ジャーナル委員会 査読委員
4. 日本語文法学会 総務委員

【所属学会】

日本語教育学会、日本語文法学会、社会言語科学会、ヨーロッパ日本語教師会、計量国語学
会

■許 夏玲

【センター内主担当】日本語教育担当（専任教員）

【研究分野】 談話分析, 語用論, 対照言語研究

【研究活動】

① 論文

1. 「日常で用いられる非外来語のカタカナ表記に関する調査 -日本語教育への応用を
考える-」『東京学芸大学紀要 総合教育科学系 II』第 72 集, pp.475-480
2. 「機械翻訳を用いた翻訳言語および語用論的解釈への一考察 -日本語文とその英訳文との
比較対照を通して-」『言語・音声理解と対話処理研究会』第 91 回 SIG-SLUD 大会論文集
人工知能学会, pp.12-17

② 教材開発

「非外来語のカタカナ語教材 中上級編」

【教育活動】

1. 留学生センター開設科目
(春学期) 「日本語 1 文法 A」, 「日本語 3 特別演習 A (メディアで学ぶ日本語)」
(秋学期) 「日本語 2 作文 B」, 「日本語 5 特別演習 B (チュートリアル)、
「日研生特別演習」
2. 学部開設科目 (春学期) 「日本語教育特論」
3. 大学院開設科目
(春学期) 「フィールド研究 B」, 「次世代日本型教育と日本語教育」(オムニバス科目),
「日本語教育 IB」, 「特別研究 I」
(秋学期) 「日本語教育 IIB」, 「フィールド研究 A」, 「特別研究 II」
4. 修士論文主査 3 名, 副査 3 名, 研究指導 (修士論文 M1 生 7 名, 研究生 2 名, 日研生 2 名)
5. 自主日本語ゼミ (春学期・秋学期) 月 4 回
6. カフェ講座「海外の学校教育事情」(春学期週 1 回、計 4 回) コーディネーター
7. 多文化共生教育セミナー「地域の国際交流と今後の課題について」(ピナット~外国人
支援ともだちネット) (7 月 31 日)

【その他の活動】

① 学内

1. (旧) 大学院教育学研究科国語教育専攻日本語教育コース主任
1. 大学院教育学研究科次世代日本型教育システム研究開発専攻・日本語教育領域代表
2. 2019 年~2021 年教員研修留学プログラム担当
4. 2020 年度~2021 年度日本語日本文化研修留学プログラム担当

②学外

1. 第2回国立大学法人留学生指導研究協議会兼 第54回大阪大学留学生教育・支援協議会
「COVID-19 禍の留学生の受け入れの状況と今後」 オンライン会議出席
2. 第7回小金井市主催外国人スピーチコンテスト・審査員 2021.3

【所属学会】日本語教育学会，社会言語科学会，香港日本語教育研究会

谷部弘子

【センター内主担当】日本語教育担当（特任教員）

【研究分野】 日本語教育学

【研究活動】

① 著書（教材）

1. 遠藤織枝編 阿部ひで子，小林美恵子，三枝優子，高橋美奈子，高宮優実，中島悦子，本田明子，谷部弘子著（2020）『そのまんまの日本語 自然な会話で学ぶ』ひつじ書房

② 論文

1. 島田めぐみ，澁川晶，孫媛，保坂敏子，谷部弘子（2020）「日本語聴解認知診断テストの開発を目指したアトリビュートとテストの分析」『日本語テスト学会誌』23，pp.37-56

【教育活動】

留学生センター開設科目

（春学期）「日本語1・2特別演習A（プロジェクト）」（「学芸フロンティア科目F」との合同授業）

（秋学期）「日本語1漢字B」，「日本語2聴解B」

学部開設科目

（春学期）「学芸フロンティア科目F」，「日本語教育概説」

【その他の活動】

①学内

1. 協定校コーディネーター（インドネシア・インドネシア教育大学）（アメリカ合衆国・ハワイ大学ヒロ校）

②学外

1. 科学研究費 基盤研究（B）「学習支援のためのWeb版日本語聴解認知診断テストの開発」（2020年度～2023年度）（研究分担者）（研究代表者：島田めぐみ）
2. 科学研究費 基盤研究（C）「外国語教師に求められる資質・能力の比較研究—認定試験と養成・研修に焦点をあてて—」（2020年度～2022年度）（研究分担者）（研究代表者：保坂敏子）
3. 日本語教育学会 常任理事・表彰委員会副委員長
4. 海外日本語教育学会 世話人
5. 現代日本語研究会 副代表
6. 基礎教育保障学会 第5回研究大会（2020.9.5～9.6）実行委員

【所属学会】

日本語教育学会，海外日本語教育学会，日本語学会，社会言語科学会，ヨーロッパ日本語教師会（AJE），東アジア日本語教育・日本文化学会，日本語テスト学会，基礎教育保障学会，現代日本語研究会

資料 1 日本語科目（日本語 1～5）一覧（*印は学部開設科目）

2020 年度春学期

科目名	担当教員	曜日・時限
日本語 1 総合 A	荒巻朋子	木 3
日本語 1 作文 A1	桂千佳子	月 3
*日本語 1 作文 A2 [日本語表現法 A・ライティング I]	北澤尚	木 1
日本語 1 講読 A1	坂田睦深	火 2
日本語 1 講読 A2	新谷あゆり	金 4
*日本語 1 会話 A1 (日本語表現法 F・プレゼンテーション I)	齋藤ひろみ	木 1
日本語 1 会話 A2	鈴木美恵子	水 1
日本語 1 文法 A	許夏玲	月 4
日本語 1 聴解 A	岩崎拓也	金 3
日本語 1 漢字 A	宮本典以子	木 2
日本語 1 特別演習 A (ビジネス日本語)	福島恵美子	木 4
日本語 1 特別演習 A (ドラマで学ぶ日本語)	宮本典以子	水 2
日本語 1・2 特別演習 A (プロジェクト)	谷部弘子	火 3
日本語 2 総合 A	横山和子	月 2
日本語 2 作文 A1	相賀亜友美	木 4
日本語 2 作文 A2	飯野清士	金 1
日本語 2 講読 A	横田亜朱紗	金 4
日本語 2 会話 A1	李貞暎	水 2
日本語 2 会話 A2	福島恵美子	木 3
日本語 2 文法 A1	桂千佳子	月 4
日本語 2 文法 A2	飯野清士	金 2
日本語 2 漢字 A	荒巻朋子	木 2
日本語 2 聴解 A	新谷あゆり	金 3
日本語 2 特別演習 A (ビジネス日本語)	笹目実	月 3
日本語 2 特別演習 A (音声表現)	石崎晶子	火 2
日本語 2 特別演習 A (マンガで学ぶ日本語)	宮本典以子	水 1
日本語 3 総合 A1	布施悠子	木 3
日本語 3 総合 A2	布施悠子	木 4

日本語3 作文 A	笹目実	月2
日本語3 講読 A	横山和子	月3
日本語3 会話 A	坂田睦深	火1
日本語3 漢字 A	岩崎拓也	金4
日本語3 文法 A	笹目実	月4
日本語3 聴解 A	横田亜朱紗	金3
日本語4 総合 A	今井美登里 小池恵己子	火1・2 木1・2
日本語4 会話 A	李貞暎	水1
日本語4 作文 A	相賀亜友美	木1
日本語4 漢字 A	坂田睦深	火3

2020年度秋学期

科目名	担当教員	曜日・時限
日本語1 総合 B	荒巻朋子	木3
日本語1 作文 B1	桂千佳子	月2
*日本語1 作文 B2 [日本語表現法 B・ライティングⅡ]	北澤尚	木1
日本語1 講読 B	新谷あゆり	金4
*日本語1 会話 B1 (日本語表現法 D・プレゼンテーションⅡ)	南浦涼介	月1
日本語1 会話 B2	坂田睦深	火2
日本語1 文法 B	石崎晶子	火3
日本語1 聴解 B	岩崎拓也	金3
日本語1 漢字 B	谷部弘子	金2
日本語1 特別演習 B (ビジネス日本語)	福島恵美子	木4
日本語1 特別演習 B (ドラマで学ぶ日本語)	宮本典以子	水1
日本語2 総合 B	横山和子	月2
日本語2 作文 B	許夏玲	木3
日本語2 講読 B	横田亜朱紗	木4
日本語2 会話 B	福島恵美子	木3
日本語2 文法 B	岡智之	水1
日本語2 聴解 B	谷部弘子	金3
日本語2 漢字 B	桂千佳子	金2

日本語2 特別演習 B (マンガで学ぶ日本語)	宮本典以子	水2
日本語2 特別演習 B (ビジネス日本語)	笹目実	月3
日本語3 総合 B1	布施悠子	木3
日本語3 総合 B2	布施悠子	木4
日本語3 作文 B	横山和子	月3
日本語3 講読 B	石崎晶子	火2
日本語3 会話 B	李貞暎	水2
日本語3 文法 B	荒巻朋子	木2
日本語3 聴解 B	横田亜朱紗	金3
日本語3 漢字 B	笹目実	金2
日本語4 総合 B	今井美登里 小池恵己子	火5・6 木4・5
日本語4 会話 B	笹目実	月2
日本語4 作文 B	小西円	金3
日本語4 講読 B	桂千佳子	月3
日本語4 漢字 B	坂田睦深	火3
日本語4 聴解 B	横田亜朱紗	月1
日本語5 総合 B	伊能 裕晃	月1・2
日本語5 総合 B	鈴木美恵子	木1・2
日本語5 会話 B	新谷あゆり	金3
日本語5 作文 B	飯野清士	金1
日本語5 漢字 B	李貞暎 飯野清士	水1 金2
日本語5 特別演習 B (チュートリアル)	許夏玲	水2

資料2 日本理解科目一覧

2020 年度春学期

科目名	担当教員	曜日・時限
日本理解 A (教育) / 多文化共修科目 D	李 紅実	木 4
日本理解 C (人文)	及川英二郎	金 4
日本理解 E (人文)	高崎 恵	金 5
日本理解 G (自然)	澤田康德	火 1
多文化共修科目 A 「多文化社会の問題解決プロジェクト」	岡 智之	木 5
多文化共修科目 C 「世界の言語と文化」	伊能 裕晃	月 1

2020 年度秋学期

科目名	担当教員	曜日・時限
日本理解 B (教育)	遠座 知恵	木 4
日本理解 D (人文)	千田 洋幸	金 2
日本理解 F (社会) / 多文化共修科目 F	加藤 拓	金 1
日本理解 H (芸術)	石井 健	金 4
多文化共修科目 B 「多言語社会とコミュニケーション」	岡 智之	木 5
多文化共修科目 D 「世界の民族と文化」	有澤知乃	火 3

資料3 短期留学プログラム (ISEP) 科目一覧

2020 年度春学期

	科目名	担当教員
1	Global Japan Studies A	有澤 知乃 (留学生センター)
2	Educational System and School Reform in Japan	末松 裕基 (学校教育教室)
3	Cross-Cultural Ideas and Activities	戸田 孝子 (国際教育教室)
4	Cross-Cultural Discussion and Presentation	戸田 孝子 (国際教育教室)
5	Cultural Social Psychology of the Japanese	杉森 新吉 (学校心理学教室) David Wong (客員准教授)
6	Introduction to Psychophysiology	池田 一成 (学校心理学教室)
7	The Aesthetics and Affects of Cuteness	Joshua P. Dale (英語科教室)
8	Exploring the Cultural Diversity of Japan (I)	有澤 知乃 (留学生センター)
9	Theatre Workshop	高尾 隆 (表現コミュニケーション教室)

2020 年度秋学期

	科目名	担当教員
1	Global Japan Studies B	有澤 知乃 (留学生センター)
2	Cross-Cultural Teaching Practice	戸田 孝子 (国際教育教室)
3	Exploring the Cultural Diversity of Japan (II)	有澤 知乃 (留学生センター)
4	Cultural Identity and Cultural Difference	Joshua P. Dale (英語科教室)
5	Traditional Performing Arts of Japan	有澤 知乃 (留学生センター)
6	Sports and Physical Activities for Children in Japan	鈴木 直樹 (保健体育科教室)

資料4 主な行事の写真

科学未来館見学（2021.1）



附属小金井小学校との交流授業（2020.12）



資料5 各プログラム概要

■日本語日本文化研修プログラム概要

1 研修内容

以下の6分野に分かれています。

- | | | |
|----------|-----------|------------|
| (1)日本語科目 | (2)日本理解科目 | (3)日研生特別演習 |
| (4)専門研究 | (5)個人研究 | (6)文化交流 |

(1) 日本語科目

各学期のはじめにプレースメントテストがあります。留学生対象の日本語科目を受講したい人はかならず受けてください。

留学生対象の日本語科目は「選択科目」です。日本語力が十分にある人は、専門研究を通して日本語力を高めることもできます。

(2) 日本理解科目

留学生対象の日本理解に関する科目として、「日本理解」8科目（秋学期：B,D,F,H、春学期：A,C,E,G）、「多文化共修科目」4科目（秋学期：B,D、春学期：A,C）があります。これらの科目は「選択必修科目」です。この中から最低2科目を選んで受講してください。

(3) 日研生特別演習

日研生のための「日研生特別演習」（秋学期）・「日研生特別研究」（春学期）があります。これらは「必修科目」です。かならず出席してください。

(4) 専門研究

自分の研究テーマや興味・関心、日本語力を考えて、指導教員とよく相談し、必要な科目を選択してください。留学生対象科目以外に学部の開設科目も受講できます。

(5) 個人研究

研修修了までに、レポートにまとめて提出します。テーマについては、指導教員とよく相談してください。「日研生特別演習Ⅱ」の時間帯で、レポートの内容について発表してもらいます。

(6) 文化交流（学生交流、地域交流、見学旅行ほか）

大学の企画のほかに、民間団体や自治体主催のホームステイ・プログラムや小中学校の国際理解プログラム、地域の行事などがあります。大学に案内がきた場合は、国際課の掲示板に掲示しますので、各自で申し込んでください。

2 修了証書と修了要件

1年間の研修を終え、その成果を指導教員が認めたものについては、本学学長名において修了証書を授与します。修了のためには、つぎの4点が必要です。

- a. 上記(2)を2科目以上履修すること

- b. 上記(3)の2科目を履修すること
- c. 上記(1)～(4)まで合わせて14科目以上履修すること
- d. 上記(5)のレポートを期限までに提出すること

*毎学期、7科目以上履修しなければなりません。

8月の時点で以上4点が確認できないと、プログラム修了と認められません。

■ISEP プログラム概要

ISEP (International Student Exchange Program)では留学生向けに幅広いトピックの授業を英語で開講しています。また、教室で行われる通常の授業の他に、音楽、美術、運動のクラスや、フィールドスタディーのクラスもあります。ISEP生はその他に、ISEPセミナーに出席し、各自で決めた研究テーマの理解を深めるため、指導教員の指導のもと、調査を行いレポートにまとめます。

・授業

以下の6分野にわかれています。

1. ISEP 科目

授業は英語で行われます。全ての留学生が履修することができます。

2. Global Japan Studies

秋学期、春学期共に開講され、必修科目です。

3. 個人研究

ISEP生は全員、個人研究に取り組みます。秋学期の終わりに研究計画書、春学期の終わりには最終レポートを提出する必要があります(秋学期のみの参加者は秋学期の終わりまでに最終レポートを提出します)。レポート提出後は指導教員とISEP教員等の前で発表をします。

4. 日本語科目

ISEP生はそれぞれのレベルに合わせた日本語の授業を取ることができます。レベルは5(初級)から1(上級)まであり、プレースメントテストの結果によって履修するレベルが決まります。

5. 日本理解科目

日本語能力の高い留学生は、留学生向けに日本語で行われる「日本理解科目」を受講することもできます。また、留学生と日本語を母語とする学生が共に同じ教室で学ぶことのできる「多文化共修科目」を履修することもできます。

6. その他の授業

日本語能力の高いISEP生は東京学芸大学で開講されている一般学生向けの授業を履修することもできます。全ての講義は日本語で行われるため、留学生の語学力によって履修できるかどうかが決まります。

ISEP 生は 1 学期に 12 単位以上の授業を履修しなければなりません。そのうち 7 単位は ISEP 科目である必要があります。

- ISEP 科目 = 1 または 2 単位
- 個人研究 = 1 学期につき 1 単位
- 日本語科目 = 1 授業につき 1 単位
- 日本理解科目 = 2 単位
- 学部生向けのその他の授業 = 1 または 2 単位

■教員研修プログラム

1. プログラムの目的

教員研修留学生プログラムは、本国で教育ないし教育行政にたずさわる人が日本の大学の教員養成学部において 18 か月間の研修を行い、その成果を帰国後に本国で生かしてもらおうというものである。

研修留学生の専門の研究はそれぞれ所属の研究室にておこなうが、日本語の運用能力を身につけずに来日した場合は、初めの 1 学期間、留学生センターの日本語コースにて 1 週間 9 コマ×15 週間の集中コースを受講する。

2. 研修内容

2-1 専門教育

指導教員の指導のもとで、研修生の希望、個人研究のテーマ、日本語能力などを考慮して履修科目を決定する。

2-2 個人研究

本人の希望する研究テーマについて、指導教員の指導の下で研究し、研修終了時までその成果をレポートにまとめ、提出する。これは報告書として刊行される。

2-3 見学実習

附属学校・教育行政機関・施設などの参観、地域の文化活動への参加、日本人学生との交流、見学実習などを必要に応じて実施する。

2-4 日本理解科目

下記の 2 科目以上を履修しなければならない。

- ① 年度ごとに指定する科目の中から 1 科目以上。
- ② 「日本理解科目 A～H (春学期 ACEG、秋学期 BDFH)」、「多文化共修科目 A～D (春学期 AC、秋学期 BD)」、「留学生教育プログラム (ISEP) 科目」のすべての科目の中から 1 科目以上を履修する。(①+②で 2 科目以上)

科目とその概要については各学期のはじめに案内する。日本理解科目の一覧表は留学生センターのホームページに掲載されている。

2-5 特別演習 Special Seminar

最初の秋学期のみ、毎週水曜日 3 限に特別演習が行われる。

2-6 日本語科目 Japanese-Language Courses

日本語科目はプログラムの必修科目ではないが、履修を希望する者は必ずプレースメントテストを受け、その結果にしたがって指示されるクラスで受講する。

2-7 修了証書 Certificate of Completion

所定の研修を終え、その成果を指導教員が認めた者については、本学学長の名において修了証書を授与する。

■シラパコーン大学 7 + 1 プログラム

1. プログラムの目的

本プログラムは、協定校であるタイ王国シラパコーン大学人文学部との特定協定に基づくプログラムである。シラパコーン大学人文学部アジア研究科では、学部 4 年間のうち、1 学期間を外国に留学させ、海外での生活を体験させ、その国の言語や社会・文化を現地で学ばせる「7 + 1 カリキュラム」を実施しており、本学留学生センターもその受け入れ先となっている。

2. プログラムの内容

2. 1 日本語科目

本プログラム生は日本語の授業を 7 科目以上履修しなければならない。レベルは 5 (初級) から 1 (上級) まであり、プレースメントテストの結果によって履修するレベルが決定される。

2. 2 特別演習

本プログラム生は特別演習を履修しなければならない。特別演習は、インタビューや発表、レポートなどを通じて、日本人と日本の社会や文化について考える科目である。

2. 3 文化交流行事

歌舞伎鑑賞教室、華道体験教室、防災館見学、ホームヴィジット等、各種の課外活動が行われる。

3. 修了証書と修了要件

1 学期間のプログラムを終え、日本語と日本文化に関する 8 科目について所定の成績を納めたものについては、本学学長名において修了証書を授与する。